

秋田は手詰まりではない！

私が初めて県政に関わるようになってから、もはや4年目となりました。議員としてこれまで県政を学び、また県外・国外で見聞を広めてきた今、驚くほど秋田県の行政が手段を尽くしきれ



ていないところや、秋田の魅力・強みがまだまだ生かしきれない部分が見えるようになりました。県が全てをやり切ったうえでの現状なら、あきらめてしまうかもしれません。しかしそんなことは全くなく、秋田が手詰まりなどでは決してないことを、私はいま確信しています。

世界の急速な変化は、これまで劣勢だった地方に一発逆転のチャンスをもたらします。内向きで過去にこだわってきた官民の考え方を思い切って変え、秋田の素晴らしい素材を外へ、未来へと大胆に上手に売り出していく。そして政治の世界にありがちな「対立=なんでも反対」か、「なれあい=なんでも賛成」かではなく、建設的に言うべきことをしっかり主張し合う。それらができるば、秋田のマインドは変わり、希望をもった若者があふれる「新しい秋田」が見えてくるはず。

打っ手は無限！

けんたの考える『新しい秋田』



これは単なる夢ではありません。変化する世界にしっかりついていき、そのために県庁を戦う組織に変え、民間のマインドを前向きにし、国のお金や民間資金を上手に使うことで十分に実現可能な秋田の未来なのです。

☆詳細は、鈴木けんたのオフィシャルHPをご覧ください！

これまでに起こせた 「前向きな変化」 (H27.4~H30.10)

3年半で一般質問5回、総括審査8回の計13回登壇しました！

高卒生の県内 就職率を向上(見込)！

▶議会で提案した「プラス1キャンペーン」を県が採用して平成30年度から着手。さっそく平成31年3月高校卒業生の県内就職希望率が、13年ぶりに70%を超えています！(70.2%、秋田労働局平成30年8月~10月発表)

県庁の甘い

自己評価制度を見直し！

▶全く成果の出ていない施策に対しても「B」(4段階の上から2番目)と評価する県庁の甘い自己評価に喝！再見直しを強く求めています。

県内 中小企業の将来の 競争力強化を推進！

▶産業新時代へ向け、県の総合戦略「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」に県内産業のIT化関連施策を多数導入。県庁内にデジタルイノベーション戦略室が設置され、人材育成プログラムや中小企業の先進技術導入支援を開始！

鈴木けんたのプロフィール

昭和50年生まれの43才。京都大学法学部卒業後、陸上自衛隊に入隊しイラク、東ティモールPKOへ派遣。平成18年の退職を機に妻の地元秋田市へ移住し、平成19年司法書士試験に合格、司法書士岡田事務所に入所。現在同事務所の共同代表。小中学生4子の父。趣味はスポ少観戦、野球。

鈴木けんた事務所

〒010-0951 秋田市山王六丁目9-19 (事務局)
TEL 018-883-0605 FAX 018-838-0785

鈴木けんたのオフィシャルHPはこちら



イージス・アショアに関する私の考え

私は逃げずに、明らかにします

配備の必要性

○ 中長期的には必要

目まぐるしく変動する北朝鮮情勢のみならず、中・ロや韓国までが弾道ミサイルを保有している現状を考えると、何らかの弾道ミサイル防衛システムは必要ではないかと考えます。「軍拡競争に乗るな」とのご意見もありますが、中国の軍事費はこの10年間で2倍以上に急増し日本の3倍を大きく上回るまでになり、もはや競争にすらなっていないことをご存知でしょうか。また「米国依存」を批判する政治家には、現代日本の地政学的環境において、日米同盟を有効に機能させる以外にどのような現実的防衛政策があるのか、しっかりと示す責任があると思います。

世界史上、自前の防衛力も同盟関係も持たず「話し合い」のみで平和を保った国を私は知りません。戦争をしたい人など、私や自衛官の皆さんを含め今の日本には一人もおりません。ただ現実的に、未永く日本の平和を守るため真面目に考えているのだということを、どうかご理解ください。

新屋演習場への配備

△ 反対だが方策は限られる

勝平地区に隣接する新屋演習場は、最適地などではありません。昨年末以来、地方議員ながら様々なルートで国に懸念を伝えてきたつもりでしたが届かず、結局有力な配備候補地となってしまっている現状は極めて残念に思います。

問題は「県に拒む法的権限がない」という点です。もし配備可能であるとの調査結果が出た場合、仮に知事や市長が反対を表明したとしても法的に阻止することはかなり難しそうです。つまり全面戦争を挑んでも、知事が埋め立て承認権限をもつ辺野古のようにさえならず、国との協力関係が崩壊したうえに配備は実行される、という大変苦しい状況に秋田が追い込まれる可能性があります。

県民の代表たる県議会議員として、勝平地区の皆様を含めた県民全体の利益を真剣に考えるならば、徹底抗戦！のその先がどうなるのかまで責任をもって検討しなければなりません。また「国防」という誰かが負担しなければならないものを、これまで原発や米軍基地などを他県に任せてきた本県として、自分たちはやはり嫌だから他県へやれと主張するのも私は潔しとしません。従って、国との対話のチャンネルを保ちながら、①あくまで性急な配備ではなく代替地を模索させる②配備が避けられない場合は合理的な説明と妥協なき安全対策を要求する、という方針で私は行動します。

(平成30年10月8日記)

KENTA Report

発行/秋田県議会議員 鈴木健太
〒010-0951 秋田市山王 6-9-19 (事務局) TEL 018-883-0605

KENTA レポート総まとめ版

秋田県議会議員

鈴木けんた

新しい秋田をつくる！